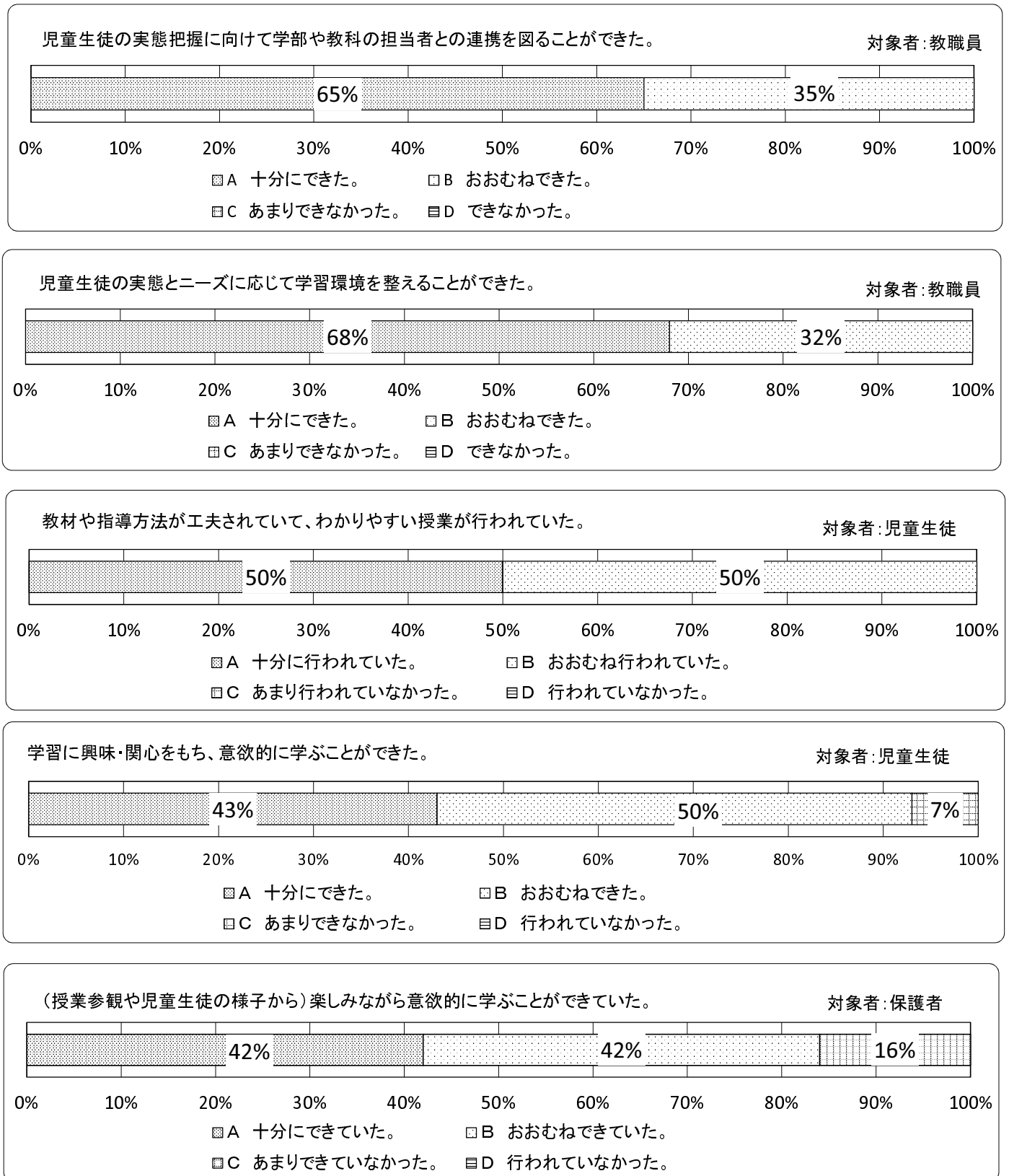


§ アンケート集計結果

1 教育課程・学習指導

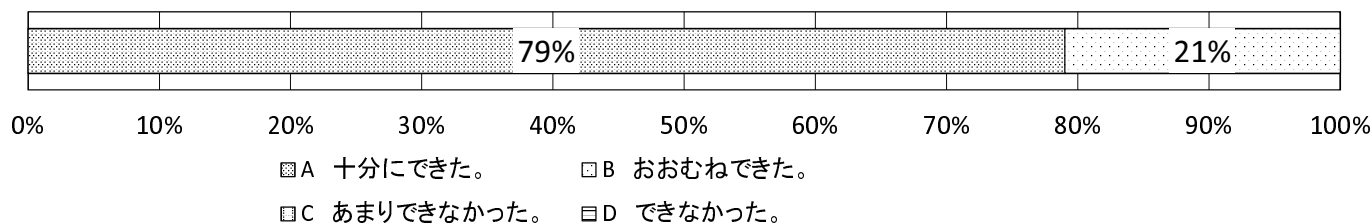


《改善策・向上策》今後もチーム盲学校として学校全体で連携を図り、主体的な学びを促せるよう教材や指導方法を工夫した分かる授業づくりを実践し、児童生徒の学習意欲の高まりが学力向上につながるよう励みたい。さらに、家庭学習においても自主的に課題に取り組めるよう支援を行い、家庭学習のサポート等について、教務や各学部、各学級発行の「通信」を活用して伝える機会を設けていきたい。

2 生徒指導部

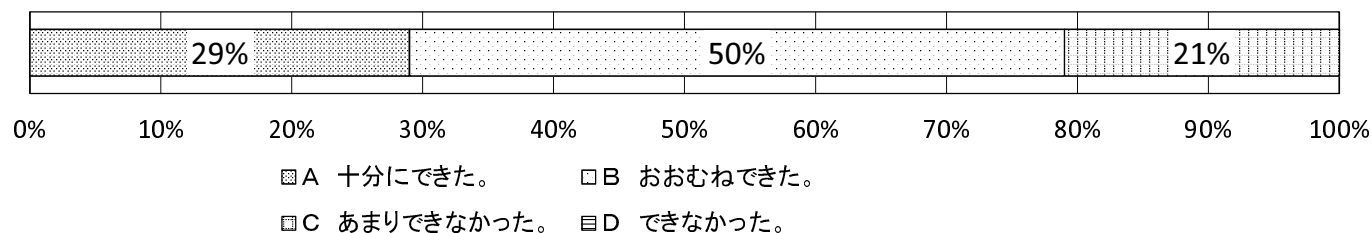
児童生徒が安心して生活できる、いじめのない環境づくりに努めることができた。

対象者：教職員



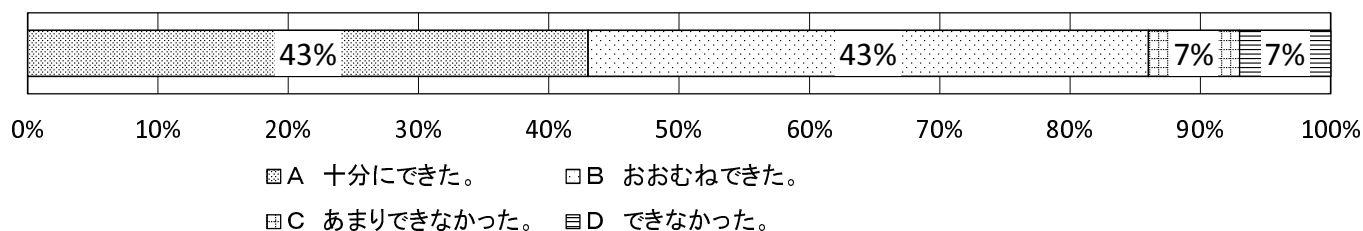
学校や日常生活で、周囲に対し思いやりや助け合いの心をもって行動できた。

対象者：児童生徒



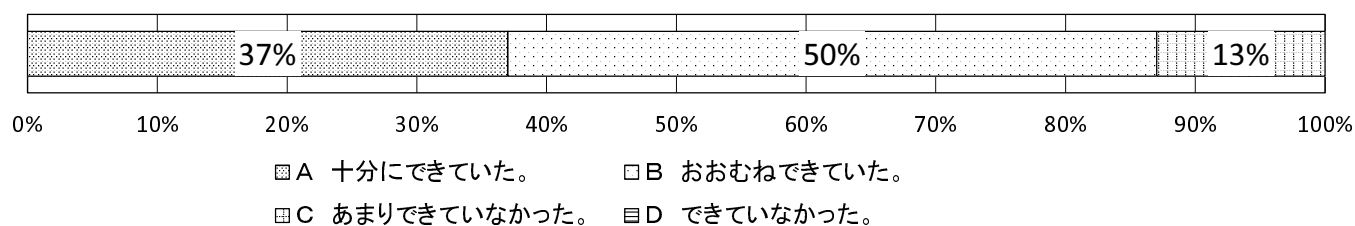
家庭や学校で、家族や先生、友達と明るく挨拶し、会話を楽しむことができた。

対象者：児童生徒



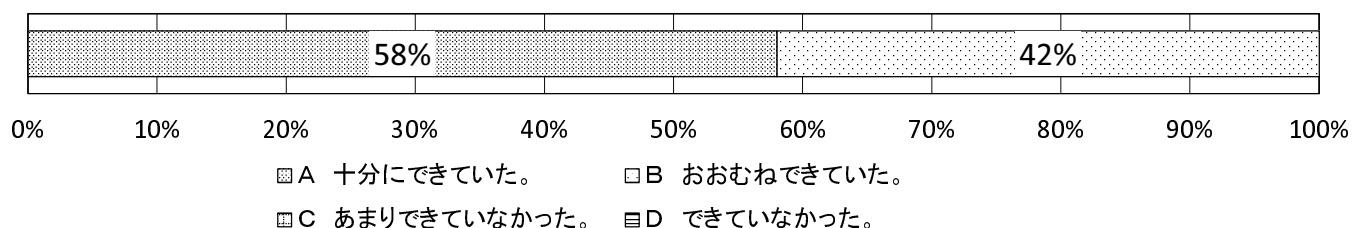
児童生徒が日常生活で、周囲に対し思いやりや助け合いの心をもって行動できていた。

対象者：保護者



児童生徒が家庭や学校で、明るく挨拶し、会話を楽しむことができていた。

対象者：保護者

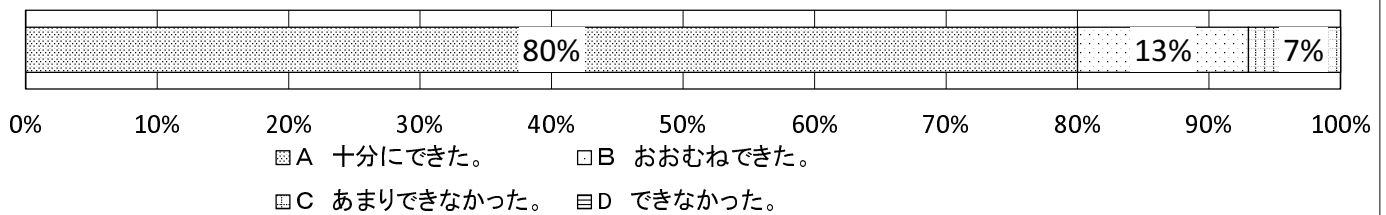


《改善策・向上策》いじめ対策に併せて、気がかりな児童生徒の欠席、遅刻、早退について対策を検討していきたい。他者との関係づくりを促すために、児童生徒数の減少に伴う学校行事や委員会活動等の規模の縮小を最小限に留め、全児童生徒が共に活動できる内容を工夫していきたい。異年齢集団での活動の機会を増やすことにより、会話の幅をもたせ、コミュニケーション能力の向上を図っていきたい。

3 進路指導

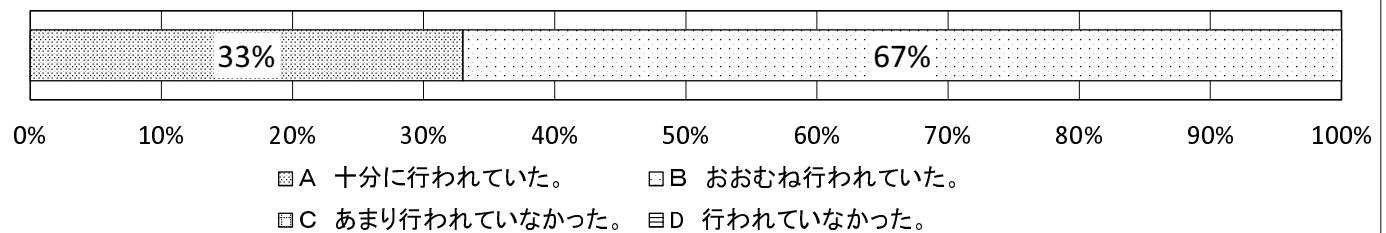
児童生徒、保護者のニーズを把握し、個々の進路目標に向けて、必要な情報提供や進路行事等を行うことができた。

対象者：教職員



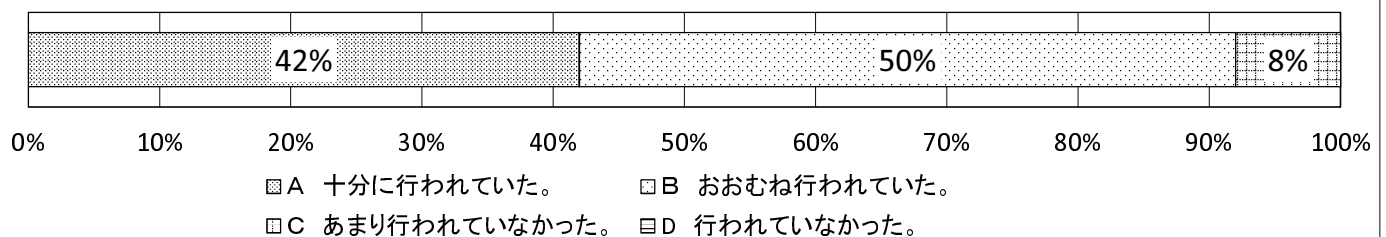
進路だより、進路講演会、進路相談会、職場見学・実習、担任との懇談等を通して、進路に必要な情報提供がされていた。

対象者：生徒



進路だより、進路講演会、進路相談会、職場見学・実習、担任との懇談等を通して、児童生徒の進路に必要な情報提供がされていた。

対象者：保護者

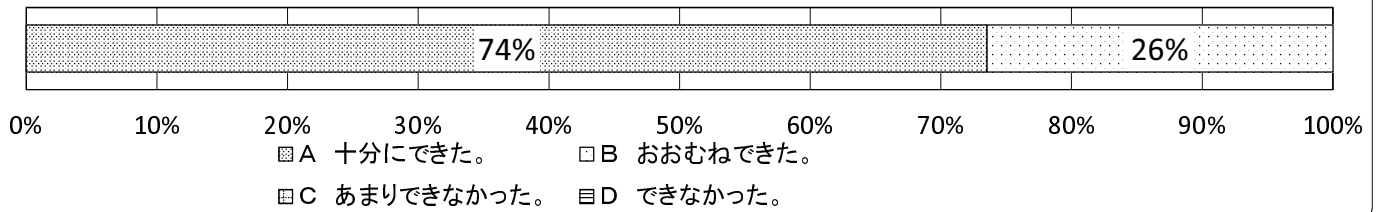


《改善策・向上策》今後も、面談や懇談会等の機会を捉え、児童生徒、保護者のニーズを随時把握し、進路指導に反映させていきたい。進路だよりや進路講演会等を通して、卒業後の生活や進路に役立つ内容、新たな情報等の発信に努めたい。さらに、福祉、労働等の各機関との連携を深めるとともに、地域とのつながりも強めていきたい。

4 保健管理

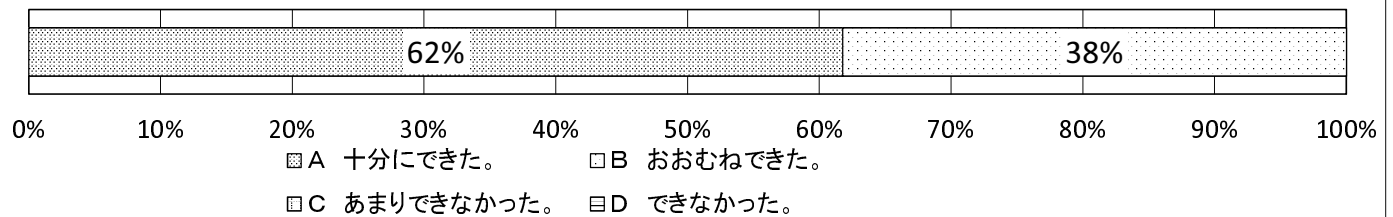
安全点検を確実に実施し、安全確保に努めることができた。

対象者:教職員



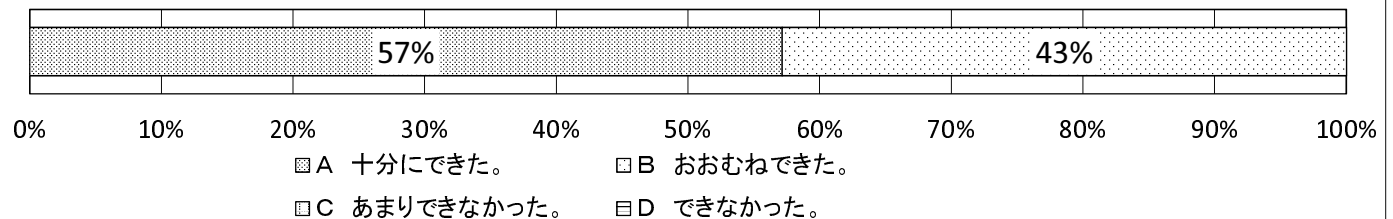
保健・給食・清掃目標をもとに、健康的な生活が送れるように指導することができた。

対象者:教職員



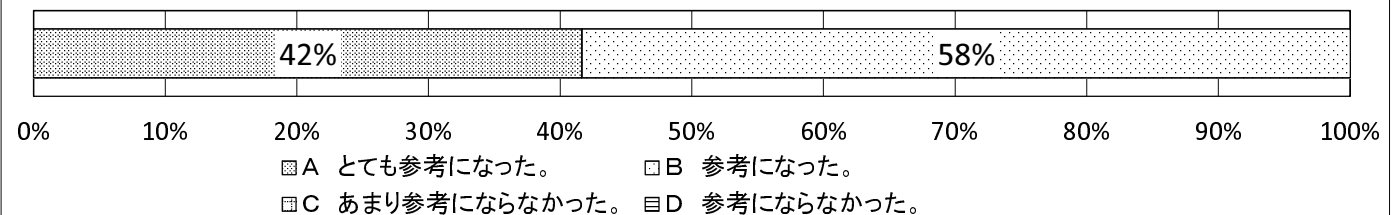
避難訓練を通して、防災に対する意識を高めることができた。

対象者:児童生徒



健康的な生活を送るうえで、保健だよりや給食だよりが参考になった。

対象者:保護者

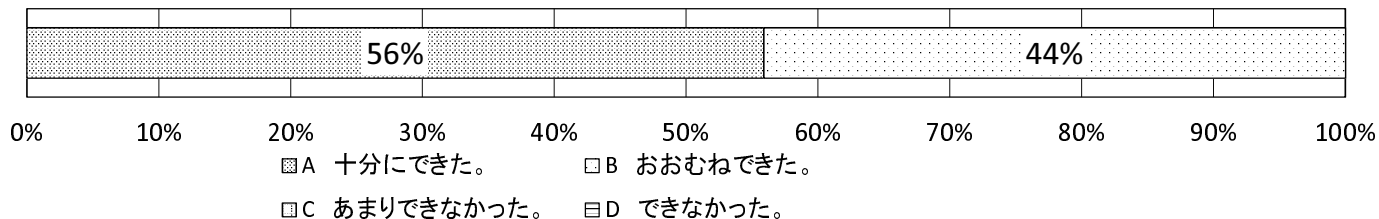


《改善策・向上策》安全に関しては、平時にしっかりと安全点検を行い、危険箇所の発見と改善による事故の未然防止に努めたい。また、災害時の対応として、さらなる防災意識の向上と知識や技術の習熟を目指し、シェイクアウト訓練等にも取り組みたい。保健、給食に関しては、保健、給食だよりの内容を充実させるとともに、保健委員会活動を通して、引き続き健康な生活を送ることができるよう情報発信していきたい。

5 図書・研修

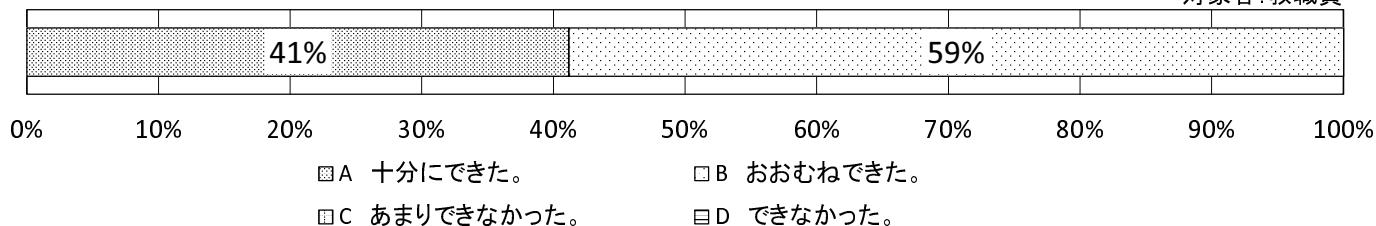
授業研究部や公開授業等を通して、児童生徒の理解を深め、専門性に基づく授業づくりを行うことができた。

対象者：教職員



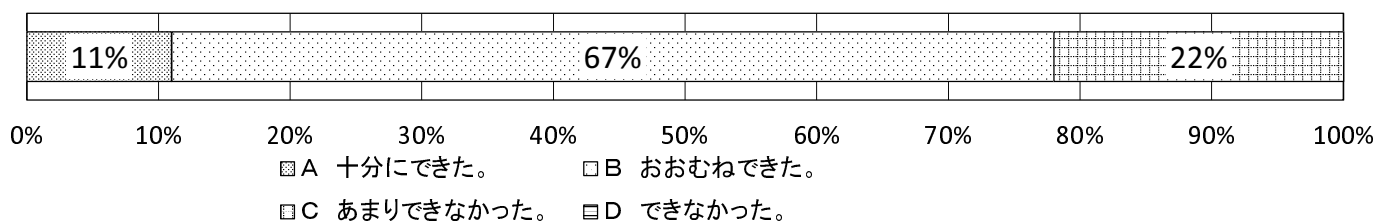
視覚・情報支援機器等に関する専門性を高め、教材作成や授業づくりに生かすことができた。

対象者：教職員



視覚・情報支援機器等に関する知識や技術を高め、学習に活用することができた。

対象者：生徒

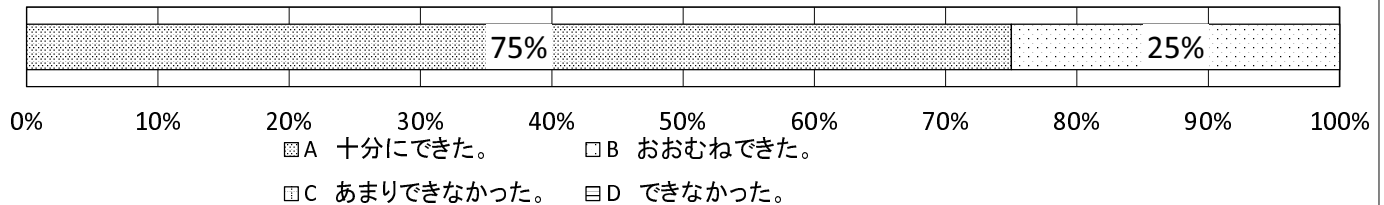


《改善策・向上策》今後も専門性に立脚した授業づくりの充実を目指し、研究グループと教科会が連携して、授業力向上に努めたい。特に、教科書、教材の電子化やそれらを効果的に活用した授業づくりに取り組んでいきたい。また、視覚障害支援機器を学習や生活に活かせるよう情報発信するとともに、生徒を対象とした視覚支援機器研修の方法を工夫し、ニーズに対応した内容で実施していきたい。

6 教育相談

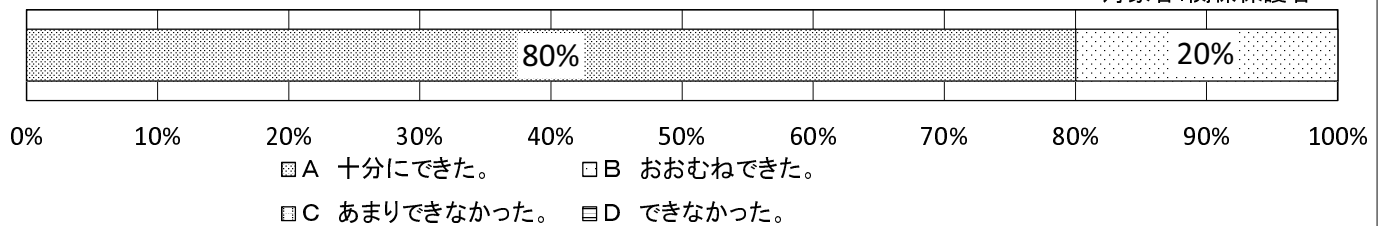
「個別の支援シート」の様式を検討し、相談児の在籍園・校の作成に積極的に協力できた。

対象者：教職員



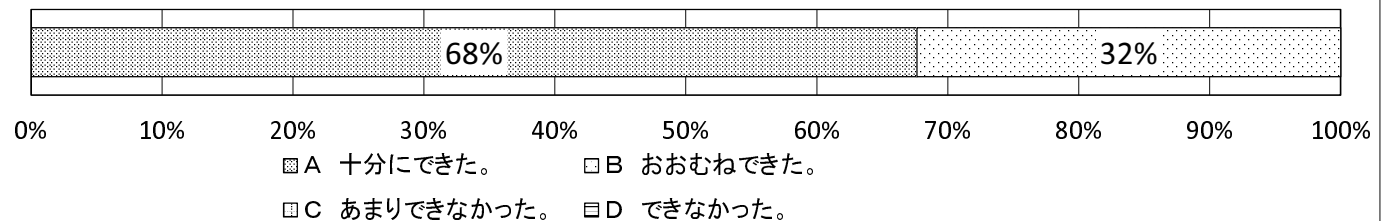
教育相談の懇談や記録を通して、子どもの実態や活動の様子が分かり、かかわり方や学習での工夫について、家族が知ることができた。

対象者：関係保護者



教育相談の懇談や記録を通して、子どもの実態や支援の方法、視覚補助具の活用、就学・進路等の情報を担当者間で共有することができた。

対象者：関係機関職員

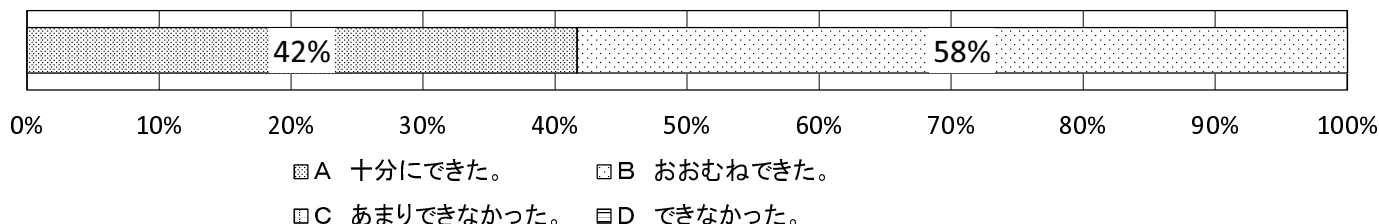


《改善策・向上策》教育相談対象児の実態を的確にと捉え、必要な支援・配慮を提案できるよう、部内で事例や支援、指導方法を検討し、相談部員としての専門性向上につなげていきたい。対象児について、家族や関係機関職員が共通理解できるよう、分かりやすい記録の作成を行い、在籍校の「個別の支援シート」の作成にも継続して協力したい。

7 寄宿舍

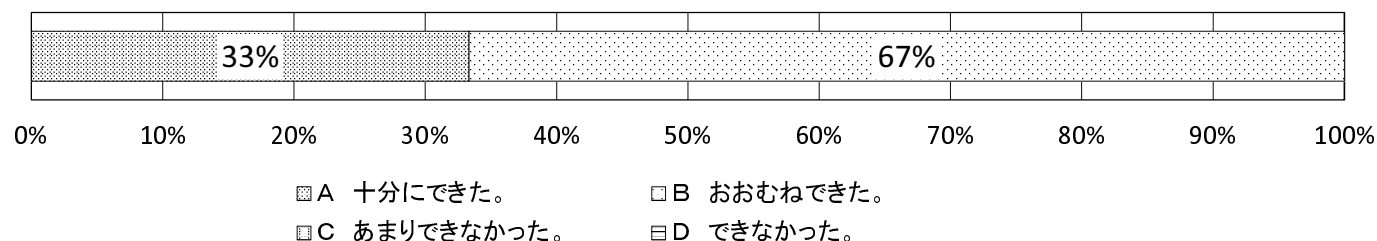
舎内での交流を通じ、舎生に思いやりの気持ちが育つように働きかけることができた。

対象者：寄宿舍指導員



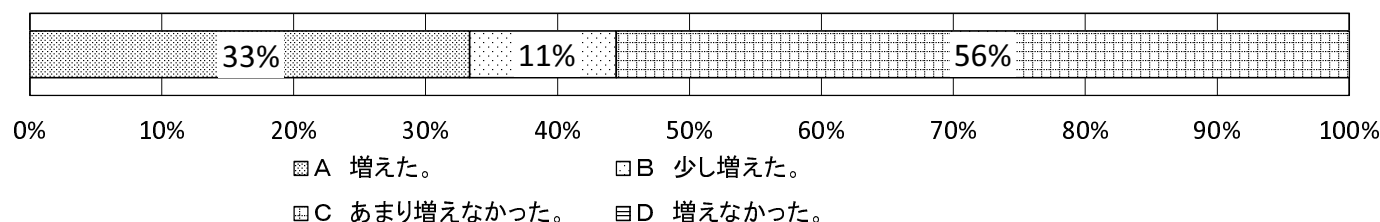
基本的な生活習慣の習得のために「日常生活の手引き」や「自己チェック表」を活用し、支援の仕方を工夫することができた。

対象者：寄宿舍指導員



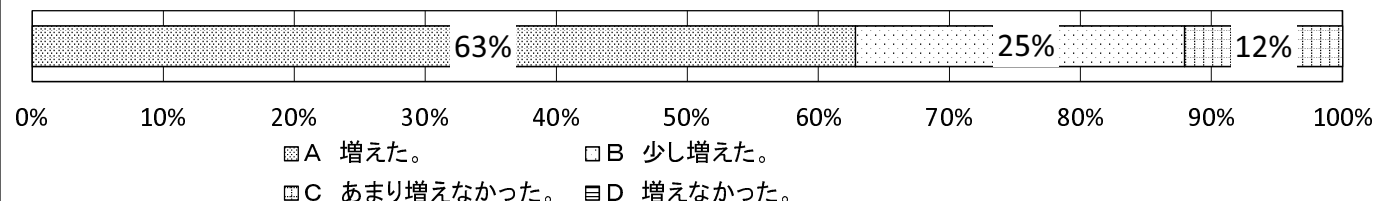
周りの人と挨拶や会話をするが増えた。

対象者：児童生徒



児童生徒が日常生活の中で挨拶や会話をするが増えた。

対象者：保護者



《改善策・向上策》今後も個別の指導計画に基づき、一人一人の課題について定期的に舎全体で確認と指導方法を検討しながら、基本的な生活習慣の習得を図っていききたい。また、POP会の回数を増やし、いろいろな体験を通して舎生どうしの交流がさらに深まるように働き掛けていくとともに、食事や掃除など日常生活の指導の中で会話の楽しさを味わわせたり、思いやりの気持ちが育つような声掛けを増やしたりするなど、指導の充実を図りたい。